



Design

号外

～地域包括ケア病棟から地域をデザインする～

発行元：地域包括ケア病棟・リハビリ科・地域医療連携室

地域包括ケア病棟広報誌“Design”号外2号です。表面は「地域包括ケア病棟の取り組みについて」、裏面は、12月3日（日）に開催しましたイベントについての報告を掲載しています。

地域包括ケア病棟独自の取り組みを紹介させていただきます

患者さんはご年齢もご病状も様々です。ご本人のペース、退院後の生活に合わせながら、多職種がチームとなり、スムーズに在宅生活へ移行して頂けるよう、支援させて頂いています。

(地域医療連携室 ソーシャルワーカー 中野 明子)

*

その1. 集団リハビリテーションを実施している



平日の昼食前の約30分間、集団リハビリを実施しています。毎回、輪になって手足の体操と嚙下体操を行っています。どうしても活動量が少なくなりがちな入院生活ですが、可能な範囲で日中はしっかり起きて離床して頂けるよう、お声かけなどを行っています。患者さんの“できること”が集団リハビリを通じて把握できるため、職員にとっても大切な時間となっています。

その2. 月1回、レクリエーションを実施している

月1回、玉入れなどのレクリエーションを実施しています。病院のため、できることに限りがありますが、レクリエーションは毎回、病棟看護師が内容を検討し、主体的に実施しています。職員にとって、患者さんの新たな一面をうかがい知ることができ、患者さんの支援に活かしています。

その3. 廊下に周回ラインを引いている（自主トレのモチベーションUPのための取り組み）

病棟1周115メートルあります。患者さんが自主トレを実施される際、「これだけ歩けた」と実感してもらうことで、自主トレに対するモチベーションを上げて頂くきっかけとなっています。職員も積極的に歩行訓練を支援しています。



その4. 認知症の患者さんの気持ちに寄り添った看護を心がけている

周回ライン

認知症の患者さんにとって不快と思われるもの（点滴のルート、尿道カテーテルなど）を可能な限り中止し、対応しています。認知症の患者さんの気持ちに寄り添った看護を心がけています。

その5. いつも地域からの受け入れをスムーズにしたいと心がけている

地域の皆様からの受け入れをスムーズに実施したいと心がけています。先日も、介護者であるご主人が当院へ緊急入院となったため、在宅医療・介護を受けておられた奥様を即座に受け入れさせて頂きました。

京都山城総合医療センターイベント“地域への想いで未来へはばたく”の報告

12月3日（日）、アスピア山城にて京都山城総合医療センターイベント“地域への想いで未来へはばたく”を開催しましたので、当日の様子を報告させていただきます。

前日から会場を借りていましたので、荷物などを運び入れ、また、当日の舞台の段取りの打ち合わせなどをし、当日を迎えました。



当日は天候に恵まれました。私と中村室長は9時前に会場に入り、こまごまとした準備を始めました。10時過ぎには担当職員や、パネル展示などで協力して頂ける各団体の方々も多数会場に到着されました。皆さん、手際よく準備をされていました。10時30分には当院の小西次長が中心となり全体ミーティングを行い、士気が高まりました。そして、12時よりスタートです。



出足は鈍かったのですが、それでも広場に展示している消防車や救急車を目当てに小さな子どもさんを連れてこられているご家族や、相楽薬剤師会の調剤体験を目当てに来られていたご家族もおられました。実際、私も「調剤体験はどこですか」

と数人の方に声をかけられました。視聴覚室では当院事務局の大西主任よりDMAT（災害医療派遣チーム）の報告をさせていただきました。



ホールでは、当院医事課の菊谷主任の司会進行で、12時30分から「地域医療支援病院ってなあに？」と題して岩本副院長の講演がありました。その後、京都府立医科大学地域保健福祉行政システム教授の渡邊能行先生より「地域医療支援病院名称承認と山城南圏域の未来」と題した講演が始まりました。他地域との比較や地域完結型医療への転換の必要性についての話など、大変わかりやすく教えて頂きました。

渡邊先生の講演後はシンポジウムが始まりました。シンポジウムは相楽医師会の藤村会長、きづがわ子育て info. の姜代表、当院中井院長がシンポジストとして登壇しました。中井院長からは今後の具体的対策などについて触れられ、身の引き締まる思いがしました。



さて、パネル展示があるスクエア、バルーンアートや調剤体験ができる視聴覚室・研修室は、来場者が増えてきて賑やかになってきました。スクエアの真ん中にはテーブルと椅子を配置していましたので、京都府介護支援専門員会相楽ブロックが用意してくださったカップケーキを食べながら歓談している方も多数おられ、ゆったりとした日曜日の午後の時間を過ごされていました。

ホールでは、松村健康福祉部長から閉会のご挨拶を頂戴した後、舞台上で姜代表によるベビーカーエクササイズが始まりました。ベビーカーエクササイズを目当てに来場されている方もおられ、軽妙な音楽に乗せ、皆さん体を動かしておられました（当院の職員も参加させて頂きました）。ベビーカーエクササイズの後には当院認定看護師会による心肺蘇生法の実演があり、ちょっとした寸劇もあり、楽しめました。



*

長い1日でした。振り返ると反省点もあるのですが、地域の皆様の皆様と連携し、このようなイベントをやり遂げたことは今後の自信につながるのではないかと思います。準備段階からご協力賜りました地域の皆様、ありがとうございました。（地域医療連携室 係長 南出 弦）